

2011年3月11日

東日本大地震・津波・原発事故
被災地・被災者を覚える礼拝

主催：日本基督教団兵庫教区

日時：2024年3月11日（月）午後2時～3時

場所：オンライン・ライブ映像配信

<https://www.youtube.com/watch?v=a629vRvyF-U>

配信協力：小栗献(神戸聖愛教会)



奏楽者 村井友子 (神戸聖愛)
司式者 柘田翔希 (尼崎)
説教者 平松洋一 (芦屋岩園／元・青森)

前	奏	”主が手をとって起せば“	奏楽者
招	き	詩編篇 139 篇 11～12 節	司式者
賛	美	十字架のもとに (讃美歌 21-300)	一 同
祈	り		司式者
聖	書	詩編 139 編 17～18 節	司式者
説	教	「それでもなお」	説教者
祈	り		説教者
黙	祷		一 同
賛	美	聖霊ゆたかに (讃美歌 21-406)	一 同
終	祷		説教者
後	奏	“わが主イエスよ、ひたすら”	奏楽者
報	告		

招 き

わたしは言う。

「闇の中でも主はわたしを見ておられる
夜も光がわたしを照らし出す。」

闇もあなたに比べれば闇とは言えない。

夜も昼も共に光を放ち

闇も、光も、変わるところがない。

(詩編 139 篇 11～12 節)

日本聖書協会『聖書 新共同訳』より

Beneath the cross of Jesus

詞 : Elizabeth C. Clephane, 1830-1869

ST. CHRISTOPHER

曲 : Frederick C. Maker, 1844-1927

十 字 架 の も と に わ れ は の が れ、
お も に を お ろ し て し ば し い こ う。
あ ら し ふ く と き の い わ お の か げ、
あ れ の の な か な る わ が か く れ が。

(♩=92)

- 1 十字架のもとに われは逃れ、
重荷をおろして しばし願う。
あらしふく時の いわおのかげ、
荒れ野の中なる わが隠れ家。

- 2 十字架の上に われはあおぐ、
わがため悩める 神のみ子を。
たえにも貴き 神の愛よ、
はかりも知られぬ 人の罪よ。

- 3 十字架のかげに われは立ちて、
み顔のひかりを たえず求めん。
この世のものみな 消ゆるときも
くすしく輝く そのひかりを。

ア - メ ン。

聖書

あなたの御計らいは

わたしにとっていかに貴いことか。

神よ、いかにそれは数多いことか。

数えようとしても、砂の粒より多く

その果てを極めたと思っても

わたしはなお、あなたの中にいる。

(詩編 139 編 17～18 節)

日本聖書協会『聖書 新共同訳』より

聖霊ゆたかに

O Spirit of the Living God

詞：James Montgomery, 1771-1854

GONFALON ROYAL

曲：Percy C. Buck, 1871-1947

1 せいれいゆたかに - めぐみをもた-ら-す。
 2 いのるむれ-のうえ - せいれいはく-だ-り
 3 やみのなか-でさえ - せいれいはひ-か-り
 4 主なるせい-れいと - であうものは-み-な
 5 せいれいを-うけて - イエスを 主とし-ん-じ

かみにせをむけてあ-ゆ-む-ひとにさえ。
 > わかいたのこをとかばをか-た-り-だすきせき。
 > こんらんこのなかであ-ゆ-み-をみちびく。
 > いしこのころさえみ-く-う-ちはじめる。
 ト 字架のしょうりをつ-た-え-よ、せかいに。

(おわりに)

ハ - レ ル ヤ。

1 聖霊ゆたかに 恵みをもたらす。
神に背を向けて 歩む人にさえ。

2 祈る群れの上 聖霊はくんだり
和解の言葉を 語り出す奇跡。

3 闇の中でさえ 聖霊は光り
混乱の中で 歩みを導く。

4 主なる聖霊と 出会う者は皆
石の心さえ 脈打ち始める。

5 聖霊を受けて イエスを主と信じ
十字架の勝利を 伝えよ、世界に。
ハレルヤ。

使2:1-4 日コリ3:3 1コリ12:3 マタ28:16-20
ヨエ3:1 エゼ11:19, 36:26

2011年3月11日の東北地方太平洋沖大地震・大津波、東京電力福島第一原子力発電所事故から一年の兵庫教区宣言

1. 東北の被災地、被災者に直接届く支援に幅広い人たちのつながりで力を注いできた兵庫教区及び被災者生活支援・長田センターは、これからもそのつながりを尊重しつつ、支援の働きを継続する。
2. 17年前の兵庫県南部大地震から5年、兵庫教区は「被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白」で、被災の後の歩みで「地域の再生なくしては、教会の復興はあり得ない」を宣教の指針としてきた。2011年3月11日の東北の大地震・大津波の後の被災地、被災者の支援においても、兵庫教区はその告白を基本にしてきた。東北の被災地、被災者の支援にあたって「被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白」を指針としてきた兵庫教区は、これからの支援にあたって「地域の再生なくしては、教会の復興はあり得ない」を支援の基本とする。
3. 2011年3月11日の東北の大地震、大津波の後を生きる人たちの生活すべてを、東京電力福島第一原子力発電所の事故が何よりも難しくしている。兵庫教区は、その事故においても、被災地、被災者に直接届く支援に力を注いできた。これからも、放射能で生活のすべてを奪われ、脅かされ続ける人たちに直接届く支援に力を注ぐ。

第66回／「合同」後43回兵庫教区定期総会採択
(2012年5月20日～21日)